

学校だより 特別号

南白石

令和7年(2025年)3月25日
札幌市立南白石小学校

保護者アンケートは、176家庭のうち132家庭に回答いただき、回答率は、75%でした。記述していただいた内容とアンケート回答をもとにして、結果を以下のようにまとめました。なお、児童、保護者、教員のアンケート項目は、枝間内容が異なります。しかし、「まなびづくり」「こころづくり」「からだづくり」と大きくとらえ、その枠内の回答ごとの数値を合算してグラフにしています。

児童・保護者・教職員の結果を並べて記載しましたので、比較しながら御覧ください。

アンケートの回答項目

A=十分によい B=よい
C=やや足りない D=足りない

★このグラフは、A・B・C・Dの回答の合計の割合を表したものです。

【まなびづくり】 自ら考え、判断し、表現する力の育成

これは、児童の学習に向かう姿についての設問です。学習に向かう意識や指導について尋ねています。児童のA評価が保護者・教員と同等程度であることと比べ、C・Dの回答が保護者・教員に比べ高い数値となっています。児童の感覚を重く受け止め、対応策を検討し、改善するように努めます。

児童アンケートでは、

「疑問や疑問を解決するために、自分で方法を考えるようにしている」の質問に対し、「やや足りない」「足りない」と感じている児童は、低学年は26%、高学年は34%、「自分の意見やタブレットを通して進んで発表している」の質問に対しては、低学年33%高学年30%と「やや不足」の評価があります。

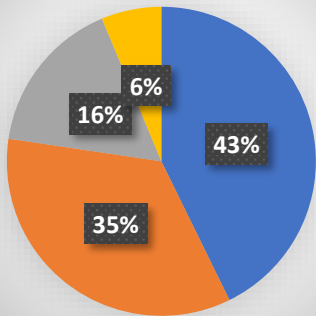
保護者アンケートでは、

A・Bを合わせると9割以上の保護者の方々が「よい」以上の評価をしていますが「やや不足」の評価もあります。

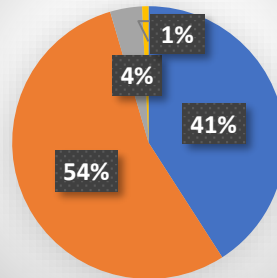
教員アンケートでは、

A・Bを合わせると8割以上の教員が「よい」以上の評価となりましたが、「子どもの問題意識の流れを大切にすることで、考え続けることを無理なく進めていけるように努めているか」については6%、「やや不足」の評価がでています。

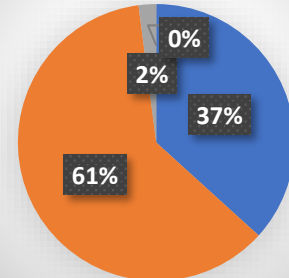
児童アンケート



保護者アンケート



教員アンケート



【学びに向かう姿】

今年度も、特に以下の3つのことについて重点を置き、教育活動を進めてまいりました。

- 児童が自ら考え、判断し、表現する場面を盛り込んだ授業を実施しました。
- ぐんぐんカードを用いてよりよい家庭学習の取組例を紹介したり、支援が家庭での学習につながるようにしたりしました。
- 「FIGJAM」「オクリンク」「ドリルパーク」など、様々なアプリケーションでChromebookを積極的に活用しました。

学ぶ力を育てる為に、次年度は、以下の2点について取り組みます。

- ①授業の終わりの振り返りを大切にし見通しをもたせた授業を行い、ぐんぐんにつながることをめざします。
- ②問題を見つけ、自分なりの考えをもてるような授業づくりを行います。

「今日わかったこと」「次にやること」を児童が意識できるような授業づくりを行い、その経験の積み重ねが、計画をたてて主体的に学習に向かう姿につながると考えます。また、子ども自身が学び方の選択肢をもち、自ら選択・決定できる授業づくりを行い、子どもに選択・決定の場面があったか、またその力が育っていたかという視点からも授業を振り返り、意識を高めていきたいと考えます。

【こころづくり】 命を大切にし、思いやりのある子の育成

これは、児童が自分や友達のことを肯定的に捉え、大切にしているかどうかを見るための設問です。児童アンケートの「A十分によい」「Bよい」は86%であり、他者を肯定的にみる児童が多いことが分かります。

児童アンケートでは、

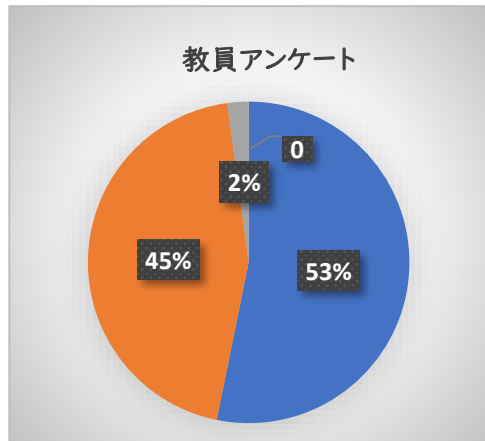
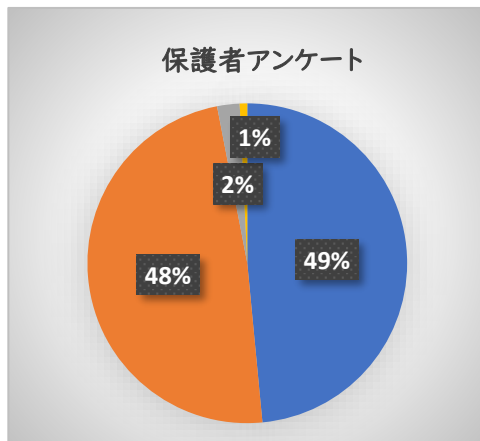
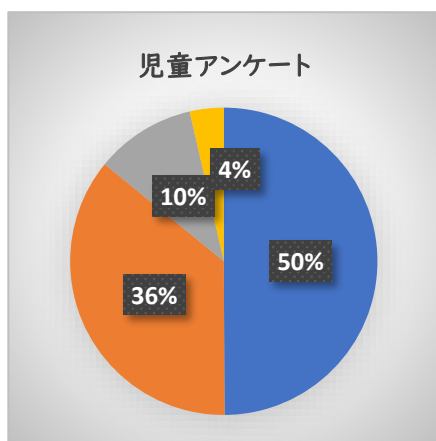
「自分の目標をもって生活している」「人のよいところを見つけようとしている」という設問に、高い肯定的な回答を得ました。教師が積極的に良さを見付けて広げていくことを心掛けることにより、更に前向きに他者をみる姿勢を育てていきたいと思えます。

保護者アンケートでは、

A・Bを合わせると9割以上の保護者の方々が「よい」以上の評価をしているますが「やや不足」の御意見もありました。

教員アンケートでは、

A・Bを合わせると9割以上の教員が「よい」以上の評価をしていますが、課題も明らかになってきました。



【自他の肯定と強い心】

今年度は、「あとしまつ」を大切に様々な行事を、できるだけ年間計画に沿って進めようと、以下の取組を大切にしてきました。

○生活スタンダード4つの「あ」の定義により、共通の価値を共有するように、規範意識を高めていきます。

○全校朝会等、改まった場での意味を考えさせると共に、ふるまいについて、より良い姿にしていきます。

豊かな心を育てるために、次年度は、以下の2点について取り組みます。

①人との関わりの基本である「聴き合うこと」を大切にすることを教育活動全体で推進します。

話を聴くこと、聴きたいと思えること、話したいと思えること、話を聴いたとき「自分との違いを見つけること」に終始せず、「同じところ・似ているところを探そうとする」共感的な姿勢を育てよう努めます。

②一人一人の考えを大切に、お互いに聴き合うことで相互理解を促すかわりを進めます。

自分の考えや思ったことを生み出すことができるような授業を通して、まずは自分の考えや思いをもつことができるように指導します。そのうえで、互いの考えを聴き合い、考えていく活動を大切にします。



【からだづくり】 自らの健康を考え、進んで運動に親しむ子の育成

これは、健康に気を付けながら生活したり、様々な出来事に対して考えて行動したり粘り強く最後まで取り組んだりすることができているかどうかを見る設問です。児童アンケートでは、「C やや足りない」「D 足りない」の数値が多くなっています。体力向上を含む、「からだ」に関わる取組について、今後検討を加えていきます。

児童アンケートでは、

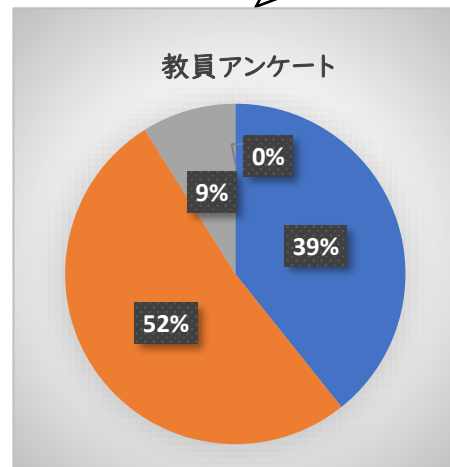
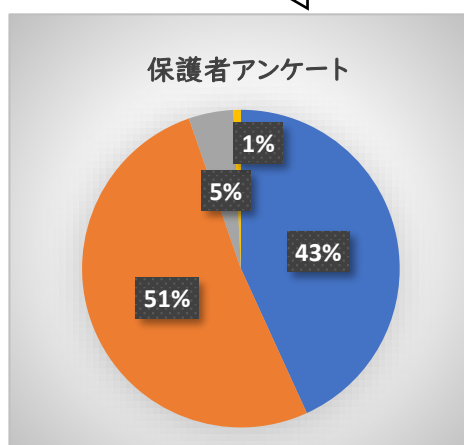
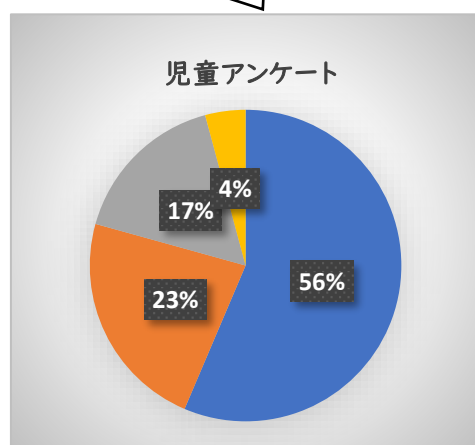
「休み時間は、外や体育館で遊ぶようにしている」という設問に対して、「C やや足りない」「D 足りない」の数値が低学年では6%に対し、高学年は45%と大きく差が開きました。休み時間の過ごし方を個人が決めることから、体を動かさずに過ごす児童もいます。教員の思いと似ているところもあるので、より具体的な取組が必要と考えています。

保護者アンケートでは、

A・Bを合わせると9割以上の保護者の方々が「よい」以上の評価をしています。御意見もありました。

教員アンケートでは、

A・Bを合わせると9割以上の教員が「よい」以上の評価をしていますが、課題も明らかになりました。



【からだづくり】 自らの健康を考え、進んで運動に親しむ子の育成

今年度は、「できるだけ外遊びを奨励し、運動に親しむ機会を増やし、成長期にある自分たちの健康と体を考えよう」と、以下の取組を大切にしてきました。

○みなしろ体操の効果について改めて見直し、本校の準備体操等に積極的に位置付けました。

○児童の食習慣や生活習慣について、家庭との連携を図りながら見直していけるような取組を進めていき、家でのゲームやスマホの使い方などネット利用に関する危険性を積極的に発信しました。

健やかな身体づくりのために、次年度は、以下の2点について取り組みます。

①運動に積極的に親しむことができる環境づくりを行います。

休み時間での遊び場所の提供および、なわとび週間や大縄大会等の主体的に運動に親しめる環境づくりを継続していきます。また、体を積極的に動かすことにはげな環境づくり(バスケットゴール・的当て・紙でっぼう・大谷グローブなど)も合わせて進めていきます。

②自分の身体を大切にしたり、健康に関心をもたせる指導に取り組みます。

大切な自分の身体について考える授業や、生活習慣や体力づくり、メディアリテラシー等にかかわる出前授業を通して、自分の身体を大切にすることを培います。



【子ども一人一人に応じた教育】

これは、児童が学習や普段の生活の中で、それぞれに抱える、様々な課題に対して、できるだけきめ細かく支援をしていくためのものです。児童アンケートでは、「A 十分によい」が多く、保護者アンケートや教員アンケートでも「A 十分によい」「B よい」が90%以上となっています。その一方で児童のC・D評価も見受けられることから、一人一人の状況に目を配り、これまで以上に効果的な支援を進めていきたいと思えます。

児童アンケートでは、

「先生方は、自分が安心して学校での生活を送ることができる」の設問については、Aが70%を超える結果となりました。今後は、更に、細かに児童の様子を見守り、困りや悩みに適切に対応できるようにしていきます。

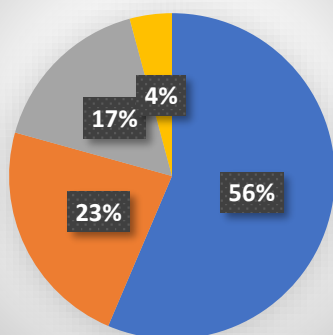
保護者アンケートでは、

A・Bを合わせると9割の保護者の方々が「よい」以上の評価をしていますが「やや不足」「不足」の御意見もあります。

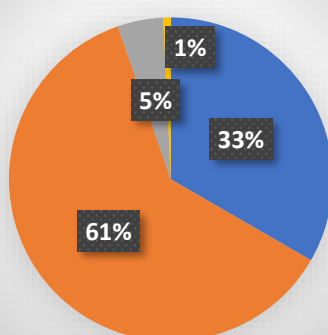
教員アンケートでは、

A・Bを合わせると9割以上の教員が「よい」以上の評価をしていますが、子どもの回答に応えられるよう、取組を進めています。

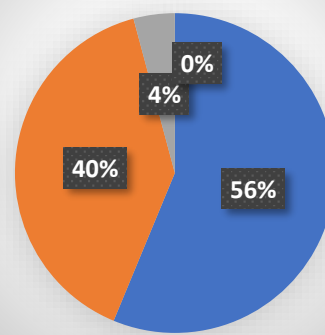
児童アンケート



保護者アンケート



教員アンケート



【子ども一人一人に応じた支援】 安心してよりよい学校生活を送るために

今年度も、学習だけでなく、普段の学校生活や家での生活で悩みや不安をもつ児童への具体的な支援として以下の取組を大切にしてきました。

- 学びのサポーター・図書ボランティアによる支援体制
- スクールカウンセラーの積極的な活用推進、学校組織での対応

一人一人に応じた支援をするために次年度は、以下の2点について取り組みます。

①一人一人の良さに目を向けた指導を行います。

担任はもちろんのこと、多くの目で子どもたちを見守り、職員間の情報共有を大切にします。そして保護者の方々との情報共有も行うことで、学校と御家庭が力を合わせてお子様を育てていくことに努めます。

②悩みや不安は、専門家による対応も推進します。

学校生活やおうちでの悩みや不安に対応するために、状況に応じて教員だけではなく、スクールカウンセラー、外部機関等の専門家と連携しながら、お子さんや保護者の方々の御相談に対応するよう努めます。



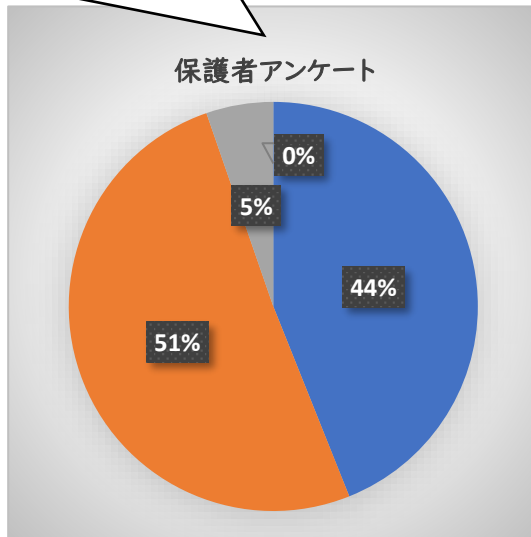
【信頼される学校づくり】 信頼される学校づくり

これは、学校・保護者・地域が連携して取組を進めることができているかどうかを見るための設問です。保護者アンケート、教員アンケート共にA・B評価が90%以上を占め、似たような傾向にあります。しかし、保護者・教員共にC・D評価も見られます。真摯に受け止め、要因をとらえ、対応していきたいと思えます。

※この設問は、「教職員」と「保護者」のみ実施しています。

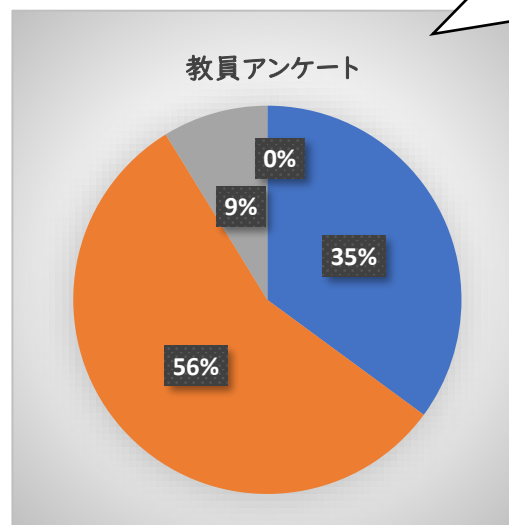
保護者アンケートでは、

A・Bを合わせると9割以上の保護者の方が「よい」以上の評価をしています。



教員アンケートでは、

A・Bを合わせると9割以上の教員が「よい」以上の評価をしています。課題も明らかになってきました。



【信頼される学校づくり】 子どもたちの学校での様子と情報の迅速な共有のために

この項目は、どの設問も9割を込める肯定的な評価が得られました。

- 学校HPの活用・各種お便りによる子どもや学校での取組の発信するように努めました。
- すぐーるを活用し、URLを貼ってリンクしやすくしたり、緊急時など情報発信したりするように努めました。

信頼される学校づくりのために次年度は、以下の2点に取り組めます。

- ①地域の方々の力を借りながら、保護者の皆様と共に考えます。
地域や保護者の皆様と連携をとりながら、お寄せいただいたお考えを共に考えていくように努めます。
- ②情報の種類によって効果的な伝達媒体を検討します。
学校から発信される情報がわかりやすく、タイムリーなものになるよう努めます。また、提供する情報の内容によって紙媒体・「すぐーる」・HPなどから最も効果的効率的な配信の方法を検討します。